

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームはるかぜ西陵
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市西陵五丁目12番4号
記入者名 (管理者)	池島 喜代子
記入日	平成 21年 4月 20日

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	BS法を用いて作り上げた理念があります。その中に「利用者 と家族の絆を地域の中で支えていく」という文言があり、利用 者が住みなれた地域で安心して生活できるよう支援していく ことを念頭においています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	ケアに関して迷ったときや疑問を感じたとき、また、日常の業 務がマンネリ化することが無いように、理念の内容を確認しな がら自分たちのケアの指標としています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々 に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関ホールや、来所の方の目の触れるところに理念の張り 出しを行うとともに、地域の方が出席される運営推進会議な どで、当ホームの理念の紹介をしています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもら えるような日常的なつきあいができるよ うに努めている	地域の中のグループホームとして認識いただけるよう、町内 会加入、地域の行事参加をしています。また運営推進会議 に地域の方へ出席をお願いするなど一人でも多くの方に当 ホームのことを知っていただこうと努力しています。買い物散 歩など、行きかう方々と、日ごろからの挨拶を大事にしていま す。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、 自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	町内会加入、行事参加をさせていただいています。町内会 の役員の方々との交流もあり、おはら祭り、夏祭りなどの見 物、文化祭参加を、利用者の方々も楽しみにしておられま す。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	団地内にある、高齢者クラブの会長さんがたに、運営推進会議へ出席をいただきました。その中で、介護保険のことや、利用のことについて知る機会がほしいなどの意見ができました。今後も交流をしていきたいと思っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を、自分たちのケアのあり方を見直す、絶好の機会と捉え指摘、意見については、真摯に受け止め全員がその改善に向けていくべきものと考えています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に参加をお願いして、おおむね2ヶ月に1回の実施をしています。そこでいただく助言などもあり、(消防署、警察、地域包括支援センター長さんなど)参考にさせていただいています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者の方には、折に触れて、相談を電話等を通じてさせていただいています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者自身が権利擁護等についての資料書籍でたまたま勉強中です。いまのところその制度を利用しているかたはありません。	○	必要に応じ、利用者家族へ情報提供できるようにしたいと思います。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成しており、どういうことが高齢者虐待になるのか職員に周知徹底しています。また、日常的にも申し送りやスタッフミーティングの機会に話題にし、虐待防止に取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて、重要事項説明をし、契約締結しています。利用者家族の、不安に思っておられることや、疑問点も遠慮なくたずねていただくようにお声掛けして、納得を得られるように心がけています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしています。また、契約時苦情相談窓口についての説明をおこない、ご意見があるときは、身近なスタッフに気軽に申し出ていただくようお願いしています。申し出のあった場合速やかに、お返事、対応を出来るようにしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	それぞれのご利用者様の暮らしぶりや、健康状態、金銭管理、職員の異動などについて、家族に、面会時はもちろんのこと月1回のお便りを通じてお知らせしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の機会にご意見をうかがったり、外部評価の家族アンケートなどを参考に意見の把握に努めています。また、昨年6月は法人独自の家族アンケートを実施して、自由意見欄も設け、さまざまな視点からのご家族の貴重な意見要望を出していただき、運営に役立たせていただいています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回運営者と、管理者の会議があり、問題点の協議や意見交換、中身の濃い研修の場となっています。運営者には常日頃より、現場の質の向上を図るべく、現場の意見に耳を傾けよき相談相手となってもらっています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	グループホームの人員基準以外にも必要に応じて人員確保しています。また、利用者の介護度の重度化もあり(食事介助の必要)早出、遅出の当番を設け対応しています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりについては、比較的落ち着いていると考えています。皆で、働きやすい職場作りに心がけ、異動退職の際も利用者の生活に影響がでないよう、新入職者の研修も十分に出来るように人員配置しています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を計画的に実施、職員参加を促しています。また、外部研修も、積極的に参加をする機会を設けてもらい、研修報告の提出もあり、みんなで情報共有しています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会があり、認知症に関する講演会、また、各事業所の事例発表会、行政の主催する会などに参加させていただき、勉強しています。また、関連事業所などとの交流で、情報交換し、サービスの質の向上に役立っています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職場環境に対し目を配り、人員面でも現場に即して配置できる環境を作ってもらっています。現場では、介護という切れ目のない仕事の中で、スタッフ同士、声を掛け合い、ほっと一息入れる時間をとるようにしています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、スタッフのスキルアップを求めるとともに、介護福祉士などの資格取得の奨励をしています。また管理者は、スタッフの心身の健康に気を配り、各職員の日ごろの努力や成果についても声掛けするようにし、向上心をもって働けるように努めています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があったとき、事前にご本人のホーム見学をお勧めしています。また、こちらから出向いて面談させていただいたりもしています。その際、実際に困っておられることやどのような生活を望まれるのかをお聞きしたり、当ホームの状況(特色)、運営方針(理念など)を説明させていただいています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	お電話での相談、来所されての面談でご家族が困っておられること、不安なことをじっくりとお聞きし、最終的には、ご本人にとってどんな生活が望ましいのか一緒に考えていけるようにしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、ほかの、介護保険サービス、や施設の紹介なども行っています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前の面談をしたり、情報収集(ご本人の性格や、生活歴)に努め、ご本人にとっては慣れない環境での生活であることを念頭に一日も早く慣れていただけるように気を配っています。もちろん、ご家族の面会もお願いしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフと利用者、また利用者同士、生活する中でお互いに、いろんな話をし、一緒に笑い、慰めあうそんな生活ができていると思います。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランについての話し合いの席や、面会時ご家族に対し、ご本人の様子を伝えていながら、ご本人と一緒に支えていくという協力関係が築けるようにしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会も多くあり、家族同伴の外出、外泊も実施されています。症状が進み、混乱が強くて面会のご家族が困惑されることもあったりしますが、スタッフが一緒に談話に入ってコミュニケーションの橋渡しをするなどの支援をしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、ご本人のお友達、知人の訪問があり、ホームも交流の支援をしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者によっては、お互い顔なじみ、お友達関係が築けています。仲良く行動される姿は、ほほえましいものです。認知症の度合いにより、コミュニケーションの難しい方もいらっしゃいますが、そんな方々、スタッフもふくめ一つの大きな家族のようにお互いを支えていけていると思います。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、必要に応じて、家族、利用者の相談に応じさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の性格や、生活歴等の情報収集はもちろんのこと、毎日のケア、支援をしていく中でご本人の思いや、暮らし方の希望の把握に努めています。また、それを実践できるようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居されてからもご本人、ご家族からいただく情報でこれまでの生活の状況の把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	お一人お一人の1日の過ごし方を、職員はよく把握しており、その方の個性、暮らし方にあわせて、その人らしく生活していただけるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者の状況を職員同士良く話し合い、本人家族の要望も入れながら、チームとしての方向性の明確なケアプラン作りに心がけています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間および状態変化に応じて、カンファレンスを行いプランの見直しを行っています。また、毎月末、実施記録を点検し、変化への対応ケアのアイデアなどが、プランに反映できるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事排泄、バイタルチェックなどの身体状況記録、介護記録、業務日誌などで、情報の共有を行い、日々のケア実践や介護計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険の中のグループホームとして、対応できるところはやって行きたいと考えています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に、民生委員やボランティア、警察、消防関係の方々にも出席いただき意見交換を行っています。また、地域住民の方の、ピアノ、フルート、声楽の演奏などもボランティアで来て頂いています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところありません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところありません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医で受診していただいています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の方の、プライドやプライバシーには十分に配慮しています。また、記録などの個人情報についても慎重に取り扱いを行っています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフの独善(業務本位)で、利用者の方の生活が乱されることの無いように、おりあるごとに、希望要望を聞くように心がけ、その言葉に耳を傾けて、思いに沿った生活が出来るように支援をしています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、規則正しい生活、張りのある生活をめざしつつ、ご利用者個々の望む生活の尊重をしています。(朝起きる時間、就寝の時間、部屋で過ごす時間、ホールで過ごす時間、午後の休息など……)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	いつも身綺麗に、おしゃれにしていきたいと支援しています。理美容については、スタッフとともに、近くのお店に出かけるかたもあり、家族がカットされるところもあります。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理参加できる方は限られていますが、みんなで食卓を囲み、「おいしいね!」と、和やかに談話しながら楽しく食事しております。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを吸う方はありませんが、行事などのときビールや、お酒をお出ししたりして楽しんでいただいています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご自分で申し出される方については(トイレ案内など)、すぐの対応を行っています。重度化された方も、定時の交換対応を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に対する意向をお聞きしつつ、入浴を楽しんでいただいています。重度化された方については、全介助の状況で、それでも、ご本人の意向を聞いて実施しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の生活パターンに合わせて、必要に応じ、日中でも、休息の時間を設けるようにしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌、散歩、洗濯物たたみ、計算ゲーム、漢字カードの読み上げ、好きなテレビ番組の視聴、般若心経、体操、嚙下体操、その方に合わせたメニューで、取り組んでいただいています。ホールでは、お話し好きな方もあり、和やかに、談話が弾んでいます。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できるかたには、お財布を持っていただき、ご自分の好きな物を買うにかけられるように支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の要望にそい一緒に出かけるようにしています。散歩などの要望は少なく職員主導となっているのが現状です。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事のなかで外出の機会を作っています。昨年はその方の希望に沿って、スタッフ同行でふるさとの菩提寺に弟さんのお墓参りに出かけました。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡は自由に出来るように配慮しています。年賀状、暑中見舞いなどは、スタッフとともに取り組んでもらっています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来ていただける雰囲気作りに努めています。面会時は、ゆっくりしていただけるよう湯茶の提供も心がけています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、職員全員が身体拘束が禁止された行為であることを周知し、身体拘束は行わないことを決意しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアには、カギをかけることなく、外出したい様子があったら危険のないように見守りをし、一緒に出かけたりしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はプライバシーに配慮しつつ昼夜を通して、皆さんが安全に生活できるようまた、状態変化や、けが事故も考えて見守りを行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	多動、異食のある入居者の方を迎え、安全のために脱衣所、洗濯室の引き戸に簡易のカギの設置を行いました。利用者の個別性に応じることはもちろんですが、今のところ、その方の安全を優先し、対応を行っています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	気づきノートの活用をして、一人一人の方のリスクの把握をして、事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回、救急時の対応の勉強会を行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議などで町内会の役員のかたがたと、災害時の事も意見交換したりしています。具体的に、地域の方々の協力が得られるような関係作りはできていません。	○	運営推進会議を通じて、地域の人々の協力を得られる関係作りを作っていければと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	安全には十分配慮はするものの、自由な生活、抑制のない生活は、必然的にリスクを伴うことを家族にも理解してもらうよう、入居時に説明をおこなっています。また、個別的なリスクの把握も行い職員会、申し送り時その対応策を話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	いつもと、ちょっと違うなどという直観力観察力と、バイタルチェック、食事状況、排泄などの情報により、速めの異常発見と、対応が出来るようにしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬状況について一覧表を作成し、疾病と薬、その副作用についてスタッフがよく理解するようにしています。また、新しい薬の服用時は特に観察をするようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為に献立に野菜を多く取り入れ散歩や、廊下歩行などの運動も取り入れています。排便チェック表の活用をしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のお一人お一人の、口腔内清潔保持の支援を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取について記録をすることで健康状態が把握できるようにしています。また、その方の状態に応じて食事の形態を細やかに変えるなどの支援が来ています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成しています。毎月、感染対策委員会を開会して、感染症に関する注意、喚起を怠らないようにしています。また、県市、本部からの感染症に関する広報も活用し、職員に周知徹底するようにしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防に関して、スタッフが理解しており、調理前の手洗い、調理器具の清潔管理、食材管理(消費期限、在庫の日付管理)を徹底しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1年を通して、玄関の花が絶えることが無いようにとこころがけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくて、広々としたホールで心地よく過ごしていただいていると思います。また、季節の花や行事の飾りつけをしたりして楽しんでもらっています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の方が誰にも気兼ねなく、自分の好みの場所で過ごしておられます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、その方の生活暦や、個性にそって、それなりに居心地の良い空間となっています。また、お部屋のしつらえについては、ご家族の協力も頂いています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室やホールの換気に努め、新鮮な空気を取り入れています。空調も、適正な温度調節を行っています。温度湿度計を活用して、環境を整えるようにしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開設8年目を迎えようとする設備には、補修の必要のあるところもでてきつつあります。施設内はバリアフリー、手すりなどの設置もあり安全な環境となっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見当識の弱い方のためにトイレの場所が良く分かるように表示したり、お部屋の表札を大きくしたりして工夫しています。環境が原因で混乱されるケースは今のところないと考えています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関アプローチで、鉢花をそだて、そこで外気浴をしたり、前庭には、洗濯物を干したりしています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設より8年目をむかえます。これまで、1, 2階合わせて35名の方の利用者の入れ替わりを経験しました。昨年度は9名の方の退居がありました。いろいろなケースを経験させていただく中で、スタッフみんなが学ばせていただき、ご利用者にとって満足の行くケアができるようにと、日々試行錯誤を繰り返しております。アルバイトまで入れて18名のスタッフでシフトを組んでいます。責任感とボランティア精神、向上心にあふれたスタッフに恵まれ、良いチームワーク、情報共有ができており管理者として心強く思っているところです。ご利用者の方も、他利用者やスタッフとの交流、いろんな活動を通じてお互いに癒される環境となっているようで精神面身体面で落ち着いて、明るく笑顔で過ごしておられると感じています。